

scale:S
集落

あるものと繋がる

折れ曲がった道や防風林で囲まれた土地割。麓集落の骨格はまだ残っている。まちなかに点在する歴史的建造物や史跡等、既に存在するものとも繋がって、再び物語を紡いでいく。



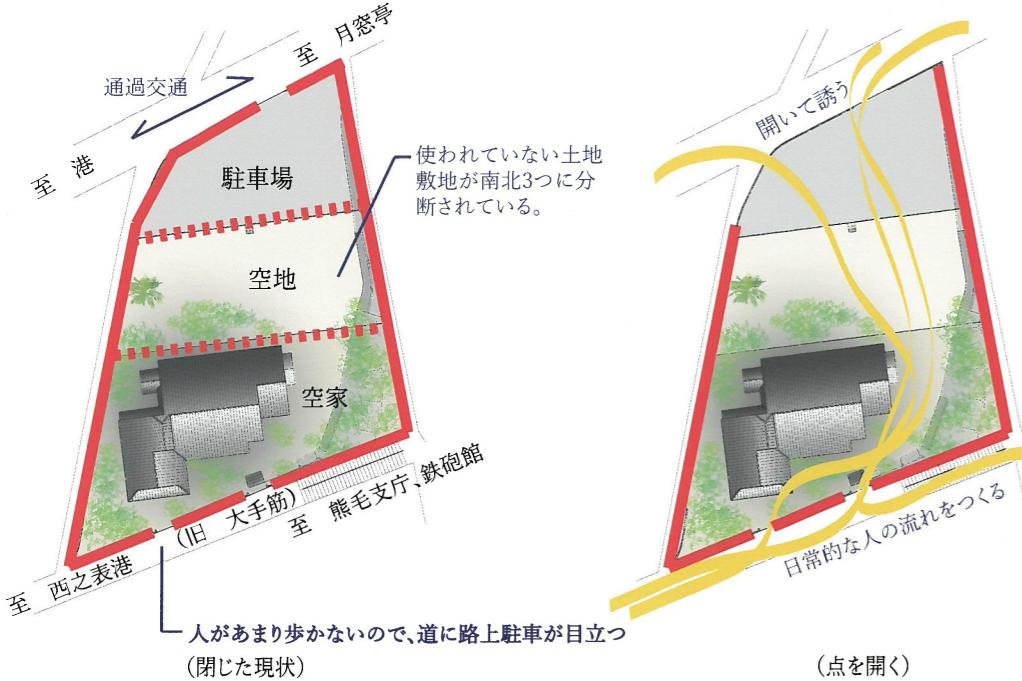
scale:SS
家

点を開いて結ぶ

家は通常、個人の所有物として閉じられている。しかし、空家となっている家には、そのものが結び目になって人と人を繋げていくことの出来る大きな可能性がある。

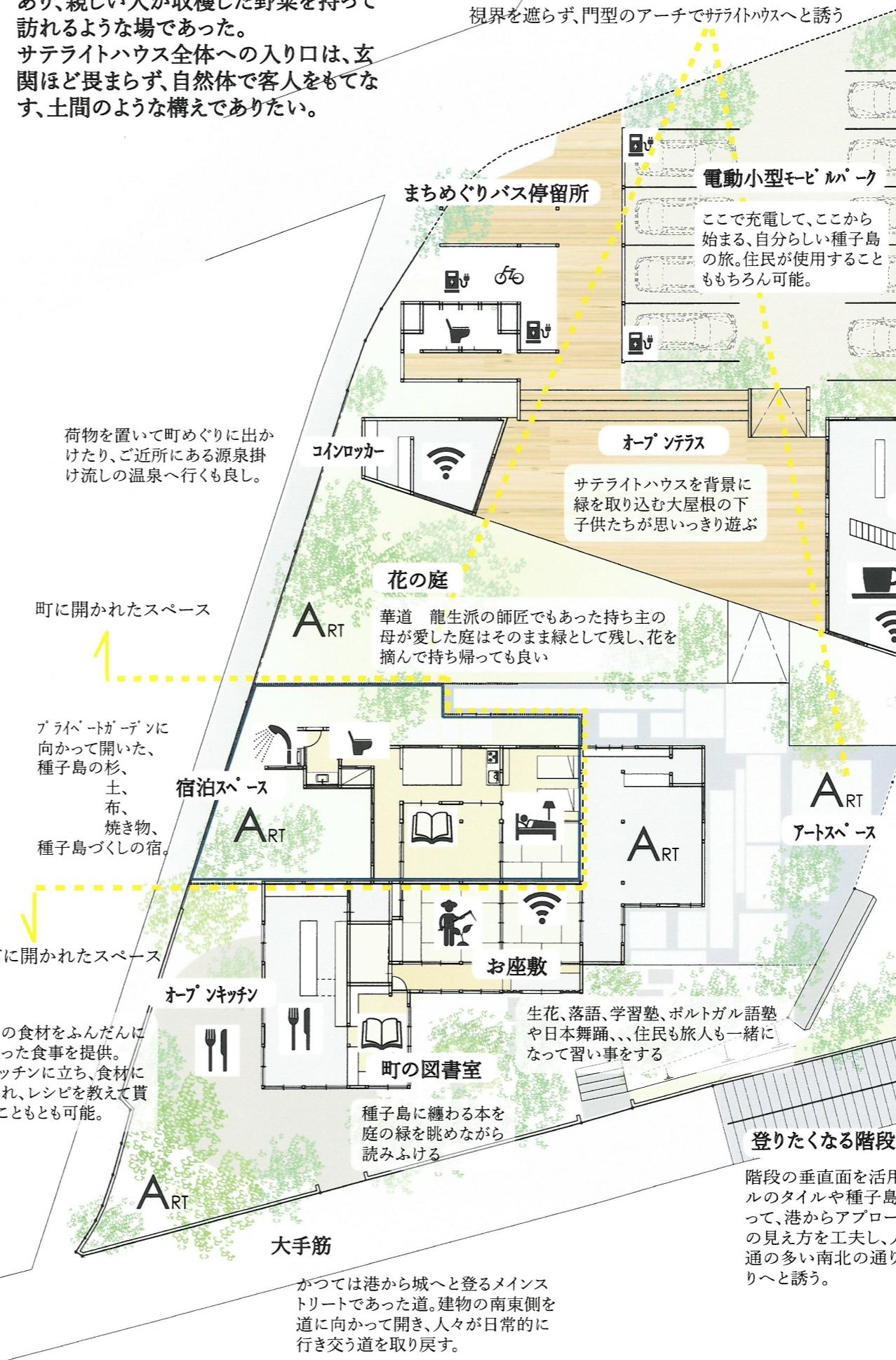
サテライトハウス★ CASE 01_榕城「土間となる家」

サテライトハウスの「土間となる家」として、西之表市西町に立つ空家の再生を提案する。旧麓地区の中心部に立つ天保11年（1840年）に建てられた伝統的住宅であり、広大な敷地をそのまま受け継いでいる。東西南北、道に面しているものの最低限の進入口を除きブロック塀で囲まれている。高低差がある為アプローチは南側と北側からのみとなる。



「土間となる家」

土間は昔から客人と住まう人が腰掛けて語らう場であり、住まう人の仕事の場であり、親しい人が収穫した野菜を持って訪れるような場であった。サテライトハウス全体への入り口は、玄関ほど畏まらず、自然体で客人をもてなす、土間のような構えでありたい。



scale:SSS

素材

語れる素材

種子島の杉、砂浜の貝殻、焼き物にもなる土、ポルトガルの青いタイル。。。サテライトハウスで空家再生に使う材料は、自然背景、社会的背景、歴史的背景を彩るものを使う。語れる素材を用いて、種子島の職人の手で、ここにしかないものをつくる。時には住民や子供たちも参加して貢い、関係を築きながら行う。

島内のサテライトハウスと繋がり、時とともに常に移ろっていく生きた情報を提供。予約も可能。